

基地撤去をめざす 県央共闘

* ↑タイトル・題字募集中

NO. 12

2009.6.17

発行：原子力空母の母港化に反対し

基地のない神奈川をめざす県央共闘会議

〒242-0028 大和市桜森 3-5-3 フォント1F

TEL:046-200-5505 FAX:046-261-5615

編集責任者 檜鼻達実

私たちは何度でも足を運び行動を起すぞ！

昨年12月、私たちは再びこの街を軍都にするな！と第1軍団前方司令部が発足して1年目を迎えたキャンプ座間に抗議行動を行なった。日米安保条約より「極東条項」の制約があるにもかかわらず、司令部を移駐させてきた意図は何なのか。米軍再編によって拡大した基地の共同使用、艦船の商業港への入港、海と空で繰り返される日米共同軍事演習。陸上自衛隊との共同軍事演習をどのように具体化するか。米軍時戦略に歩調を合わせ、部隊の指揮、運用を統合していくことを目的とした戦闘指揮訓練施設の建設を日米両政府は合意した。(↓につづく)



07年3月に朝霞駐屯地で発足した「中央即応集団司令部」をキャンプ座間に12年度迄に移駐させる計画が進んでいる。「頭脳」の融合だ。宇都宮駐屯地に08年3月に発足した「中央即応連隊」などの精鋭部隊と第1軍団とが共同して戦闘訓練し、部隊の指揮、運用能力を高めるための軍事施設。米軍が自負しても、防衛省は共同使用にコメントしない相変わらずの姿勢。市民に情報隠しの防衛省だ。

戦場に直結しているキャンプ座間・相模総合補給廠の基地強化を許すな！建設を中止せよと740名の怒りの渦が基地を囲んだ。

なし崩し海外派兵ーP3C哨戒機2機ソマリア沖へ

5月15日、防衛省はP3C哨戒機の派遣命令を出した。5月28日、厚木基地から海上自衛隊のP3C哨戒機2機と海自部隊約100人がジブチ空港に向かった。海賊対策のための海上警備行動の任務につく。民間空港との理由から、陸上自衛隊中央即応連隊約50名が機体警備として宇都宮駐屯地から派兵された。対テロ作戦の米軍を下支えすることになる。インド洋で給油活動継続している護衛艦と給油艦。海賊対策を名目に3月13日に出港し活動している護衛艦「さみだれ」と「さざなみ」。イスラム諸国周辺で活動する自衛官は約1000名近くに及ぶ。海賊対処法案が参議院に審議中にもかかわらず、米軍への配慮から駆け足派兵が拡大している。「海上警備行動」では、正当防衛、緊急避難に限られる武器使用。このため、「海賊対処法」では武器使用基準を緩和し、「交戦」が可能となる。海外での「武力行使」が戦後初めて想定される事態なのだ。3月30日から5月末までの2ヶ月間で護衛を受けた日本船は72隻、護衛を受けられず湾を通過した船が210隻あった(朝日6月11日)。

一方、海上警備の対象は、日本船に限られているが、これまで6回、外国船のため緊急対処している。防衛省は「ほかの船の遭難を知った船長に人命救助のため必要な措置をとることを義務付けた船員法が根拠」としているが、外国船を救助する場合の武器使用は認められていないのである。想定外は起り得るのである。また、自衛隊に対処行動を命じるだけで派兵できる法案になっており、国会には事後報告のみで、文民統制でも問題がある。今、世界不況の影響もあり、アデン湾を航行する日本関係船舶は激減しているという。

私たちは5月27日、海上自衛隊厚木基地第4航空群司令官に対し、領海を越えた派兵、法案が審議中、隊員の安全、家族の不安を解消する手立てが講じられていないなかでの派兵に、抗議と中止を求める申し入れ行動を当共闘会議他3団体で行なった。先の第10回定期総会において、緊急提案を全会一致で採択し、当日の行動となった。参加者は約20名であった。

ごとう正彦さんを市長に！

「原子力空母の母港化見直し」マニフェストを支持

来る6月28日投開票される横須賀市長選に原子力空母の母港化の見直しを唯一掲げるごとう正彦さんが市長候補として、今、横須賀市内を縦横に駆け巡っています。3人の争いとなっている市長選ですが、原子力空母について言及している候補者は、ごとう正彦さんただ一人です。

私たち「基地撤去を求める県央共闘会議」は、結成以来、違法爆音に苦しむ厚木基地周辺住民の皆さんとともに抜本的な騒音解消を行なうためには、空母艦載機の厚木基地乗り入れを止める以外ないと国や関係機関に訴えてきた。73年米空母ミッドウェイが横須賀港を母港として以来、暫定的と言われた寄港が母港として使われるようになって今年で26年目になる。

これまで、三次に亘る爆音訴訟では違法判決とされ、昨年4月に横浜地裁に4度目の提訴を約7000名の原告で行い、現在公判も6回まで開かれ、意見陳述を述べる原告の訴えは切実なものがある。そして今、飛行差止め訴訟での爆音による健康被害調査も始まった。米軍の飛行訓練は、夜昼間の区別なく繰り返され、空母が横須賀港を出入する度に「離発着訓練」が厚木基地で実施されてきている。

こうした爆音の元凶は、横須賀港が米本国以外に唯

一とされる空母の母港となっているからに他ならない。もし、横須賀市が母港化を返上すれば、爆音が軽減されることは言うまでもありません。米軍再編で岩国基地への移駐も取り沙汰されていますが、騒音のたらい回し以外の何物でもありません。今年1月~4月にかけて原子炉周辺の修理が秘密裡に行なわれました。安全問題もないがしろにされている。基地の存在が争点隠しされてはたまりません。

「原子力空母の母港化に反対」を冠として掲げてきた当会議として、市長には、ごとう正彦さんを支持し、横須賀を平和都市に変えていこうではないか。



■横須賀市の知人・友人に働きかけを！

■ビラ配布、事務作業等、ご協力出来る方

☎046-825-9844 へ

反戦・平和運動を より強固にしよう

「基地めぐりツアー」を続けたい

河崎 民子（大和の空を考える市民ネットワーク）



去る1月5日に「冬休み基地めぐりツアー」を行いました。基地のある街に住みながらその実態を知らない市民が増えていること、特に次世代の子どもたちに「基地」を知ってもらうことが大切だと考え、みんなで企画しました。

私自身は「大和市基地対策協議会」に2年ほど委員として関わりましたが、基地そのものについての知識は浅く、資料づくりの一端を担う過程で学んだことがたくさんありました。

当日は子ども1人と大人18人の参加者でした（子どもたちは塾などで忙しかったようで…）。レンタカーのキャラバン2台に分乗して、厚木基地、キャンプ座間、相模総合補給廠などを回り、憲法みぎの丘などのウォッチング・ポイントから基地を俯瞰しながら、基地に詳しい人から説明を聞き、資料を提供しました。

参加者は「ジェット機がうるさい！と思っているだけで、基地の場所や役割、問題などに無関心だった。参加して本当によかった」と口々に感想を言いあっていました。終了後にいただいた次のような手紙には勇気づけられました。「基地を身近に感じながら、知っているつもりになっていたことや、知らないでいることがたくさんあることがよくわかりました。何事もそうですが、”知らない”というのが一番怖いことであり、知ろうとしないことは（究極を言えば）自分の命を人任せにすることでもあると思います。そのような意味からも、いろいろ考える機会を与えていただき参加して本当によかったです。」

今後も「まずは知ること」をキーワードに参加者を広げ、少なくとも年1回はツアーを企画していこうとみなで話し合っています。

今こそゼットイ反対の声を大きく鮮明に！ 戦闘指揮訓練センター建設・基地強化

鶴田 ひさ子（婦人民主全国協議会）

今ほど麻生政権・既成勢力と国民世論とのねじれの大きい時はありません。

『週刊プレイボーイ』— 普段買わない雑誌だが、電車の中吊り広告に「キミも選ばれるかも。やったら危険！裁判員制度」というのが載ったのを見た。国会では全会一致で成立した裁判員制度は、5月21日にいよいよ始まると言われるけれど、未だに国民の8割が反対し、昨秋29万人に送られた候補者通知が12万数千道も許否の意をこめて返送されている。「おとなしい日本人」（？）などと言われる中で、この事実は一大反乱と言っても過言ではないと思う。裁判員制度を実施する側が最も自信をなくしている。いや実は裁判員制度だけでなくあらゆることで、政府も資本家たちも枕を高くする日など一日もない。定額給付金のばらまきもその後の増税の図を労働者市民はよくよく知っているし、気分は国会のあらかたの既成の勢力の宣伝に乗せられるほどのんきでもダメでも未熟でもない。

3月12日相模原にあの田母神元航空幕僚長が講演にやってくるというので反対の街頭を相模大野で行なったのが、非常に有意義だった。北朝鮮をどう見るかから安保問題、今の時代の反戦闘争のあり方まで、3.20イラク反戦6周年めぐって道ゆく人との大討論になった。結局、みんな本当のことが知りたい。討論もガンガンやりたいというのが実際なのだよくわかった。今の100年に一度といわれる不況がどれほどのことか知りたい。気休めなんていらぬのだ。大恐慌だとすれば、これからどうすればいいのか…。みんな真剣だし、考えている。お上や会社の言うとおりにしてきたら、今の事態だ。もっと頭を低くしていたらいつの間にか過ぎるほどの軽い危険ではないこともわかってきている。恐慌～世界経済の収縮、保護主義の台頭となれば、これまでとも違って世界の帝国主義大国の軍事動向はエスカレートし、世界戦争を含む問題となるのは歴史を見れば一目瞭然。だから反戦・反基地・反核武装の本気の訴えがちゃんと響くし、受け止めてくれる。だから半端はまずいと思う。オバマの「核のない世界を（— ただしアメリカを除いては）」という米核独占宣言を核軍縮の旗手のようにミスリードすると、それはほとんどない間違いとなる。資本主義に生命力はもうない。しかし、自ら退場しない連中だ。だとしたら、私たち労働者民衆が本気で主権を行使しようということ。「ゼットイ反対」の明快さが今何より労働民衆の圧倒的多数と結びつくというのが実感です！



次世代のためにも、後退しない運動を！

— 県央共闘会議第10回定期総会開催 —

去る5月23日、大和商工会議所で第10回定期総会が開催された。平和運動センターをはじめ、第1軍団の移駐を歓迎しない会、バスストップから基地ストップの会、社民党、神奈川ネットワーク運動からの熱い連帯のあいさつを受け、大波修二代表の県央地域における反戦・反基地運動をより強固にし、先頭にたって闘うとのあいさつ後、議事進行となった。

止まぬ神奈川での日米軍事再編、基地強化の動きに、傍聴者としてでなく毅然と立ち向かおうとの運動方針も採択された。新役員として、湘北教組から推挙された清水則之さんを新事務局長に迎え入れ、これまで裏方、表方に奔走してきた檜鼻事務局長には副代表として活躍いただくこととなった。事務局に大和市職から

鈴木修さんが加わった。結成当時から役員として先頭に立って活動を担ってきた鍛冶邦彦さん、二分野治さんが退任されることとなった（これからもよろしく）。方針では、横須賀市長選及び、P3Cのソマリア沖派兵についての行動提起もあり、了承された。

青森市に本社を置く東奥日報社の斉藤光政編集委員を招き、「米軍再編最前線を歩く」と題して記念講演。

在日米軍の軍事活動と役割について、歴史的経過を振り返った後、米軍三沢基地では何が起っているのか。また、日本海をにらんで配備されているミサイル防衛（MD）システムについて語った。

三沢基地のF16戦闘機部隊（第35戦闘航空団）は、米空軍が世界戦略を視野に推し進める「グローバル・ストライク」（長距離先制攻撃能力）を担う最高レベルの空軍部隊。イラク、アフガニスタンを爆撃していることや、MDシステムの眼となる移動式早期警戒レーダー「Xバンドレーダー」を車力基地に06年6月。頭脳とされる統合戦術地上ステーション（JTAGS）を07年10月に三沢基地に配備。日米が一体となっすすめる青森県の「MD回廊化」の現状が話された。4月の北朝鮮ミサイル発射の際、レーダー関連施設がフル稼働したが、検証されないことから、ソウルで取材後、北朝鮮は迎撃から日米のイージス艦を即時に攻撃できる態勢を取っていたことを記事にしている（東奥5月24日）。斎藤さんは、キャンプ座間、厚木基地、横須賀港はテロの対象となっており、いつ攻撃されてもおかしくない。日米軍事再編に反対の声をあげていくべきと結んだ。50名近い参加者、会場から質問も相次ぎ、熱気ある講演会となった。



県央共闘会議 2009年度 第1回幹事会の開催

- と き 7月8日（水）午後7時00分から
 ところ 大和市生涯学習センター208号室
 ぎだい ①ピースフェスティバル2009について
 ②今後の活動について
 ③その他

当 面 の 行 動 予 定

- 06月21日（日） 横須賀市長選出陣式（9:30～小川町選挙事務所）→28日投開票日
 06月22日（月） 第四次訴訟第7回口頭弁論（13:30～横浜地裁）
 07月08日（水） 県央共闘会議第1回幹事会（19:00～大和市生涯学習センター208号室）